

トマト黄化葉巻病情報第1号

平成22年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 コナジラミ類の発生状況

トマト黄化葉巻病の病原であるトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）は、タバココナジラミバイオタイプB及びQによって媒介されます。タバココナジラミは県内各地の露地野菜等で発生しています。屋外での黄色粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数は、弥富市では過去5年の平均より少なめですが、田原市では過去3年の平均よりやや多くなっています（図1）。

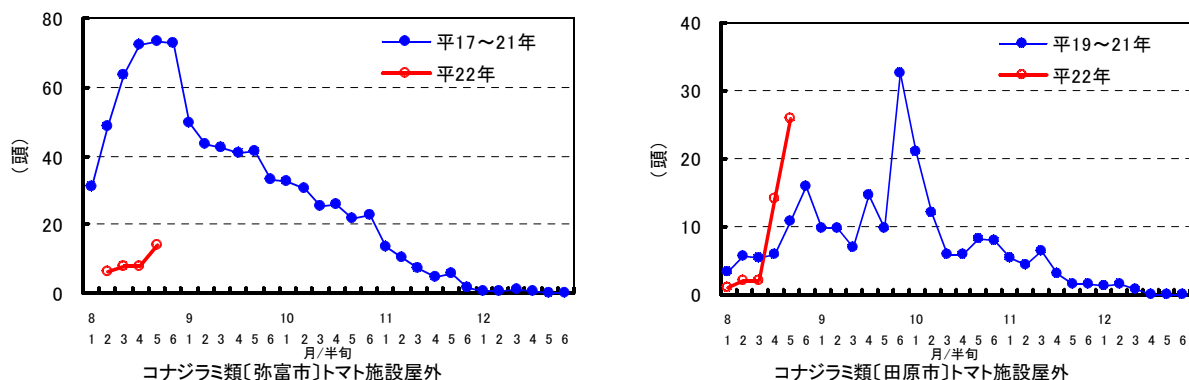


図1 黄色粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数

2 防除対策（栽培初期の防除が重要です）

- (1) 施設の開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を張りましょう。
- (2) 育苗時や定植時には粒剤を施用しましょう（下表）。
- (3) 感染の疑いのある苗は定植せず、土中に埋めるかビニル袋に入れて枯れるまで密閉しましょう。
- (4) ほ場での観察をしっかりと行い、タバココナジラミを発見したら防除を行いましょう（下表）。
- (5) 施設内の発病株は見つけ次第抜き取り、(3)と同様に適正に処分し、残さをほ場周辺に放置しないようにしましょう。
- (6) 施設の周辺の雑草を抜き取り、タバココナジラミの増殖源を減らしましょう。



図2 トマト黄化葉巻病発病株



図3 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）

コナジラミ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	希釈倍数又は使用量	使用時期／使用回数
トマト、ミニトマト	ダントツ粒剤	1 g/株	育苗期／1回 ¹⁾
トマト、ミニトマト	ダントツ粒剤	1～2 g/株	定植時／1回 ¹⁾
トマト、ミニトマト	スタークル／アルパリン粒剤	1～2 g/株	育苗期／1回 ²⁾
トマト、ミニトマト	スタークル／アルパリン粒剤	1～2 g/株	定植時／1回 ²⁾
トマト、ミニトマト	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで／3回以内
トマト、ミニトマト	ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで／3回以内
トマト、ミニトマト	モスピラン水溶剤	2000倍	収穫前日まで／3回以内
トマト、ミニトマト	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫前日まで／2回以内
トマト	アプロードエースフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで／3回以内
トマト	クリアザールフロアブル	4000倍	収穫前日まで／2回以内

1) 育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内

2) 育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内